中日新聞 2016.7.17

ころは湖国

私の故郷

木之本の絆 都会で実感

アナウンサー 橋本奈穂子さん

はしもと・なおこ　NHKアナウンサー。長浜市木之本町生まれ。明治学院大法学部政治学科卒業後、2003年にNHK入局。金沢放送局、名古屋放送局を経て10年から東京アナウンス室。現在は、うたコン（火、後7・30）とニュース7（月～日、後7）の土日、祝日に出演する。好物の一つに、ふなずし。

木之本小学校（長浜市）のころは、自然が遊び道具でした。決して活発な性格ではなかったんですけど、小さな川でタニシやカワニナを採ったり、近所の子にバッタを持って追いかけられたり。父が音楽好きだった影響で、木之本中学校と虎姫高校では、吹奏楽部でサックスを吹いてました。ビッグバンドに参加して、地域の文化祭でも演奏しました。

音楽が好きだったのは、運動が苦手だったのもあります。運動会なんて基本的に五位とか六位。ずっと不公平に思っていました。テストの順位は全校児童に披露されないのに、なんで駆けっこが遅いのは披露しなきゃいけないのって。

マスコミに関わりたいと思うようになったのは、高校のころ。好きな音楽に携わる仕事ができたらいいなと。大学三年の時に、政治とメディアに関するゼミで、ある候補者の選挙事務所に行きました。開票日、各局のアナウンサーが中継に来ていました。取材して、中継が来ると、ぱっとマイクを握ってしゃべって、自分の言葉で伝えて。格好いいなと思いました。アナウンサーになりたいと思ったんです。

今は、うたコンという歌番組とニュース7に出演しています。うたコンは視聴者の方から、ちっちゃい紅白歌合戦みたいと言われたこともあって、年配の方が楽しみにしてくださっている。好きな音楽番組で人の役に立てるのは、すごく幸せです。昔みたいにテレビの前に家族がそろうことは少ないですけど、素晴らしい歌声、楽曲を若い世代の方にもお届けする懸け橋になりたいと思っています。

子どもの時から私を知っている人は、ニュースを読んでいるのを見て「別人みたい」ってびっくりされます。私、すごいおっとりしてるんです。しゃきしゃきと動けなくて。

でも、田舎のゆっくりとした時間軸で育ったからか、地域に取材に行ったときは、すんなりと受け入れてもらえた。田舎ならではの若い人のもやもやした気持ちとか閉塞感、都会への憧れとか分かるんです。今考えると、田舎で暮らしたアドバンテージって、こういう部分にあるんだと思います。

今でも近所の人は、私が帰省しているのを知ると、初どれのキュウリを持ってきてくれる。みんなが気に掛けてくれるんです。子どものころは「橋本さんちの奈穂ちゃん、どこどこに行ってはる」とか、全部ばれちゃうんで、すごく嫌なこともあったんですが、今思うとよかった。

木之本は、地域の密なコミュニティーが、ずっと続いてほしいなって思います。ホタルがそこら中に飛んでたり、自然が豊かだったり。お猿さんが出るのは怖いですけど。「都会に出た人間が何を言ってんだ」って言われそうですけど、田舎ならではの良さが残ってほしいです。

子どもの頃の思い出を振り返る橋本さん＝東京都渋谷区で

取材後記

NHKアナウンサーは、お堅い人ばかりだと勝手に思っていた。でも、違った。ほんわかとした雰囲気で、飾らない。言葉も等身大。なんだか、近所のお姉さんと道端で会話しているようだった。

「木之本の人は、おおらかなんです」と橋本さん。そういえば、インタビューに立ち会っていた別のアナウンサーいわく、橋本さんのイントネーションは取材途中から微妙に標準語ではなくなっていたらしい。

（渡辺大地）

びわこ版

マイスポット

自分の部屋です。部屋にはマンガやベッドがあって、とても落ちつきます。また、ときどきゲームをしたり、友だちと遊んだりしています。最高の場所で、気に入っています。

米原市米原小6年
三和　祥太朗君

園舎にさよなら 感謝の風船放つ

米原保育園

米原市の米原保育園